

日進おりど病院を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。本研究は、対象となる患者様から直接同意を得て行う研究ではなく、研究の情報を公開することが必要とされている研究です。本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

研究課題名	低亜鉛血症を伴う多剤内服症例における亜鉛製剤投与による内服薬数の改善が可能かの検討
研究機関名	医療法人大医会 日進おりど病院
研究機関の長	病院長 遠藤 茂夫
研究責任者	藤田 浩史
研究目的・意義	亜鉛は代表的な必須微量元素で、欠乏により味覚異常、皮膚炎、脱毛、貧血、口内炎、男性 性機能異常、易感染性、骨粗しょう症などが発症し、小児では身長・体重の増加不良(発育 障害)もきたします。さらに、多くの慢性疾患(肝硬変、糖尿病、炎症性腸疾患、腎臓病疾患など)の方で血清亜鉛値は低下しており、亜鉛欠乏状態であることが指摘されています。2017年3月に亜鉛製剤(ノベルジン®)の適応拡大が承認され、「低亜鉛血症」の疾患名で処方が可能になりました。2018年には亜鉛欠乏症の診療指針1)が提唱され低亜鉛血症の患者様に広く亜鉛製剤の投与が可能となりました。経年変化に伴い亜鉛の吸収量も低下するため高齢者の約25%で血清亜鉛値が65µg/dL 未満(正常80µg/dL以上)とされています1)。亜鉛は300種類以上の酵素の活性化に必要な成分で、細胞分裂や核酸代謝などに重要な役割を果たします。高血圧、糖尿病、高脂血症に関与する酵素群(ACE2,DPP4、PPAR、HMG CoA還元酵素など)はいずれも亜鉛要求酵素で亜鉛の補充による各酵素の改善により高齢者の多剤内服の改善ができる可能性があります。
研究方法	当院外来にて亜鉛製剤のみを単独、もしくは継続している内服に単独で追加した症例の各血液パラメーターと内服薬数の関連を検討する。
研究期間	2019年1月から2020年12月
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名・住所等の患者様を直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究結果は学会や論文などで発表を予定していますが、その際も患者様を特定できる個人情報は利用しません。
お問い合わせ先	電話 0561(73)7771 医療法人大医会 疫学・臨床研究倫理審査委員会事務局(渉外企画室 清水)
備考	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。 * 試料・情報を当該研究に用いられることについて拒否する場合も上記お問い合わせ先に問い合わせてください。